



目 次

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 21 世紀を臨む
 図書館の整備に期待する…………… 1～3 ○ 翻訳を考える…………… 3～4 ○ 本、未知の世界への誘い…………… 4～5 ○ 図書館を利用して…………… 5 ○ 図書館の思い出…………… 5～6 ○ もう一人の先生としての図書館 …… 6～7 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 愛媛大学附属図書館
 業務電算化委員会の設置について… 7 ○ 本学図書館の地域資料について …… 7～10 ○ 昭和 62 年度新規
 及び中止購読雑誌リスト …… 11～14 ○ お知らせ…………… 14 |
|--|---|

21 世紀を臨む図書館の整備に期待する

農学部分館長 伏 見 知 道

1. はじめに

21 世紀といえば 10 年以上先で、「来年のことを言うと鬼が笑う」というのに、5 年も先のことで鬼が笑うのに困るのではないか……』といったせりふを思い出す。10 年一昔といった時代でさえ、来年のことは判りにくかったものである。まして昨今は、5 年一昔どころかもっと短縮しているかもしれない。これは技術革新による新しい物や情報が、次々と供給されてゆくからに他ならないのだが、このような状況の中では、21 世紀は遙かな未来で、容易に予見しにくい将来のようでもあり、鬼も笑うどころか顔がゆがんでくるのではないかと不安感が去来する。しかしながらそのなかで、容易に変化しないもの、あるいは変化させてはならない面、たとえば緑の自然のようなものもあり、それらを正しく識別整理し、認識を新

たにしてゆくことが大切であろう。

2. 大学の量的発展と質的展開

現在の大学制度は、旧大学制度から脱皮し、限られた数の学生のエリート的教育から、大量の学生を教育する方式に転じたもので、既に 38 回の学生を迎えている。いわゆる戦後の、この教育改革に際しては「1 県 1 総合大学の構想」がうたわれ、最近になって各県に医学部または医科大学が設立されるに及んで、ようやく達成されている。大量の学士を、同時に社会に送り出してどうするつもりなのか……という批判も当然あったが、これについては、「教養ある社会人を育成する」という趣旨であり、大学での専攻と直接関係のない社会分野で活動する人達があっても結構、むしろ、それを期待する気持が底流にあったように思う。現在、「駅弁のある所に大学あり」という状況か

ら更に、大学の数量的拡大が続いているのであるが、今や21世紀を目前にして、新たな技術革新・情報社会の展開を踏まえて、大学は今までにない形で、量から質的展開が求められてきている。このような状況の中で、大学図書館はどう在るべきなのであろうか。

3. 大学附属図書館の整備

情報社会においては、社会を動かしてゆく機能の基礎を情報が構成してゆくのであるから、良質の情報をより多く収集蓄積し、随時利用できる施設設備を確保してゆかねばならない。情報化が進むに伴い、情報産業対応要員が不足するという点で、情報工学科の新設がみられる。しかし、情報産業は、それ単独で経済成長を主導することはできないし、その意味で、工業システムを支えているとは言にくい点があることに注意が必要である。

情報社会をもたらしたものは、戦後第二の技術革新の主役になったICであろう。動力コントロールのIC化が産業に普及しているのだが、IC化したコントロールは、従来の機械的制御システムを、(センサー・IC・作動部)という迂回システムに換えることであり、性能を改善している反面、複雑な構成になり、耐久性や故障修理という点では、機械的制御システムに比べ不利である。高価値のICをほとんど無価値に等しい硅砂から製するには、多量のエネルギー(電力)と高純度の水が必要である。現在石油エネルギーによって、技術革新がもたらされ社会が支えられている。しかし石油は有限、現在石油に替るものとして考えられている代替エネルギーは、労働生産性が低いだけでなく、資本生産性においても劣っている。したがって石油に依存しないとすると、長期的には工業システムを衰退させるおそれがある。古代文明が「水資源の枯渇を越えては生きのびられなかった」ことを思い出すべきではなからうか。このような、利用可能のエネルギー資源が有限であるという認識から、今までのような生産性絶対主義ではなく、「人間生活や生産活動」を「エネルギー環境」とのバランスに照らして考えてゆかねばならないし、また「人間生活の内面的充実」が見直されてゆくべきであるとの見方が注目されつつ

ある。このような状況は、充実された図書館の存在を、ますます有意義なものとしてゆくであろう。

情報化が進む中で、中央集中化傾向が強くなっているけれども、情報は任意にどこでも利用できるのではないと、いわゆる、地方の時代もUターンし、形骸におわってしまうおそれがある。地方の独自性を打ち出し確立してゆくためにも、情報センターとしての図書館の役割が不可欠であろう。特に地方国立大学の附属図書館としては、学術情報の地域センターとしての機能を拡充し、地方にも貢献することが、その使命の一つとなるものであろう。次には、有限ではあるが再生産可能なエネルギー源であるところの生物資源に関する強力な情報センターの存在が重視されよう。これは現在、「先進国の浪費と途上国の貧困とが人間環境を破壊する」のを防ぐことが、地球規模で重要な課題になってきている点からも、うなづけるであろう。

以上のような観点から、附属図書館の機能向上についても、現在一般的なニューメディアを活用した設備による質的改善が求められることはいうまでもあるまい。附属図書館の総合的整備計画の中で、農学部分館の新営も計画されているが、その具備すべき要件を、次のように構想している。

(1) 生物資源学術情報センターとしての機能

本学は昭和60年度から、高知大及び香川大を加えた大学院連合農学研究科の基幹大学として、中心的役割を果たすことになり、農学部自体も、農林水産物を経済的及び市街部に対する環境的資源と見て、それらの育成・管理について攻究する方向で見直し拡充を検討してきている。更に農学部の教育研究の現状と資源生物の渡来経過から、アジア南部地域も対象にした、西日本における生物資源学術情報センターとして機能する図書館を目指す。

(2) 地域に対する専門図書館としての機能

情報社会では、附属図書館の有する資料収集・情報提供機能こそ、地方国立大学が地域社会に貢献できる、最も手っとり早くまた、有益な道ではなからうか。大学以外の、広く開かれた利用者が教育研究上で使いやすいう、開かれた専門図書館としての機能を備えてゆくことが必要であろう。四国地域が、西瀬戸経済圏構想の主要基盤で

あり、また国内の主要な総合的食糧生産基地の1つでもあるので、生物資源学術情報の地域に対する重要性が、増大するにちがいないからである。

(3) 学習利用のための多機能性

大学院及び学部の学生・教職員を始め、開かれた利用者が、いろいろな形式で活用できる多機能性を備える必要がある。ニューメディア機器は、一般的管理・サービス面から、これを支えるであろうし、また視聴覚機器として、個人的あるいは複数利用者による同時学習空間にも備えられねばならない。更に限られた空間の有効活用を目指し

学内LANによる情報の研究室直送機能の導入も重視される。

4. おわりに

21世紀を臨む附属図書館では、本館はもちろん農学部分館の新営整備も望まれているのだが、国際化してゆく情報社会の中で、緑に象徴される自然を基盤にした生物資源学術情報の地域センターとして、恥かしくない図書館機能の構築が達成されることを、心から願っている。

翻訳を考える

石川 勝二

現在我が国で翻訳書はどのくらい出ているだろうか。おそらくその数は新刊書を含めかなりの量を占めるにちがいない。ヨーロッパの歴史と文化に関心をもつ1人として、いろいろな本が翻訳されるのは喜ばしいことであるし、実際恩恵を受けている。しかし今出ている翻訳書の訳文はこれだよいのだろうか、つねづね疑問を抱いていた。要するに翻訳が分かりにくいのである。そんな折りたまたま別宮貞徳『誤訳 迷訳 欠陥翻訳』以下の本を手にした。ある雑誌の「欠陥翻訳時評」と銘打った連載を一冊にまとめたのだが、こうして問題のある翻訳を、一堂にずらりと並べて示されると、やはり今出ている翻訳には問題が多いのだなと改めて驚かされる。よくもこんなずさんな翻訳が出版されるものだ、と目を疑うほどである。はっきりいって本書は誤訳摘発の本である。しかも峻厳この上ない告発の書である。しかし何をもって誤訳とするか、良い翻訳とは何か、その判断はなかなか難しいと思う。20年も前になるが、こんなことがあった。

グロータース神父という、オランダ語とフランス語を母国語として育ち、オランダ語と近縁の英語・ドイツ語はもちろん、中国語にも、その上に滞日十数年の経験から日本語にも堪能な言語学者が、誤訳を取り上げた本を書いた(『誤訳』三]省堂、1967年)。真っ先に槍玉に上がったのが、イギリスの現代小説イブリン=ウォー『黒いいたず

ら』(吉田健一訳)であった。「『黒いいたずら』を手にして読んでみて驚いた。本文の最初から誤訳また誤訳である……。こんな誤りは高等学校の語学教師が教室で指摘する種類のものである」と手厳しい。ところがこれに対して永川玲二都立大学助教授(当時)が間髪を容れず反論した。「満場の視線を一身にあつめるその先頭の例を読んで……私はびっくりしました。〈誤訳〉がちっとも誤訳でない」それだけでなく「吉田健一氏のその訳文がほとんど奇跡にちかい名訳であることに目をみはった。」(『展望』1967年12月)。この勝負神父に分が悪かったようである。この翻訳がウォーの「流暢な口語、ときに俗語をまじえた英語」をうまく「流暢な、ときに俗語的な日本語に移植」していることに気付かなかったのである。それでもグロータース神父はこの例から、「やっつけ仕事、英語文化についての不十分な知識、英語そのものの知識不足という問題を指摘しているし(『誤訳新版』1979年)、翻訳のあるべき姿を豊富な事例で示しており、また別の面白さがある。

別宮氏の本はどれも鬼面人を驚かす題名がついているが、内容は至って真面目である。そこには優れた翻訳とは何かを問いかける真剣な態度が見られる。語学の知識はもちろん、言葉に対する鋭い感受性、日本語の表現力、そしてなにより常識が必要という。この本を読んで、翻訳は本当に難しい、誤訳を避けることが決して簡単でない、と

改めて思い知った。しかし別宮氏は枝葉末節にこだわっているのではない。翻訳者がもう少し細心にして大胆な翻訳を心がけたならば随分と違ってくるのではないかといっている。翻訳が分からないのはこちらの頭が悪いのだ、と思う必要はないし、分かりにくい所があったら翻訳を大いに疑ってよいのである。しかしそれでも問題は解決しない。読者は普通「欠陥翻訳」であることを知らずに買わされるし、訳文がおかしいと思っても対照する原書が手元になければ御手上げである。

優れた翻訳が多くあることも事実で、この小文を読まれて、翻訳を読むのを止めようと思われる人がいると困るけれども、翻訳をめぐる問題は決

して小さくはない。ここに取り上げられたのは特にひどいものばかりとしても、ヨーロッパ語とまったく違った日本語を母国語として育ったわれわれは、翻訳なしにすべて原語で読むわけにゆかないからである。今よりも正確で読みやすい翻訳書が多くなる日が果たして来るだろうか。別宮氏の仕事のように、気長に、辛抱強く、その日が来るのを待たなければならないようだ（別宮氏の本は上に挙げたほか、『続 誤訳 迷訳 欠陥翻訳』、『こんな翻訳読みたくない』、『こんな翻訳に誰がした』がある。いずれも文藝春秋刊）。

（教育学部教授 歴史学）

本、未知の世界への誘い

三 島 靖

大学における専門分野を決める時、新入生の諸君の多くはそれまでに教科書、参考書の類以外に自分が興味を持ち読んだ本から大きな影響を受けたであろうと思います。

さて希望学科に入学ができ、これから専門とする分野について関心、興味そして誰にも負けない好奇心を持っていることと思うので、専門に関する本については扱置くとします。私は諸君に狭い専門分野についてだけでなく、広く他の分野についての本をも読むことを勧めたい。それにより他の分野の物の見方、考え方の差異を学ぶことが出来るからである。昔から「専門馬鹿」という言葉があるが、この意味を、専門以外のことは知らないではなく、専門のことはずば抜けて豊富で高い学識を持つという意味に理解しなければ、これからの時代に取り残されてしまうであろう。現代は常に他分野との間に新しい境界領域が開拓され、これが日進月歩の時代である。これに対処する為に常に自己の狭い専門以外の知識、考え方を取り入れていかねばならない。それは文献、書物といわれる物から取り入れることが多い。また他分野との関連で、自己の専門分野の位置づけの新発見または、再発見をすることもある。それゆえ他分野の書物を読むことを諸君に大いに勧めるのである。

次に書物には著者の思想や考え方が表れているので、常に批判精神を持って読むことが大切である。これにより自己の考え方を発展させる新しい発見の糸口を教えられることがある。批判精神を忘れないことが大切である。

さて数日前になるが、物理学者の寺田寅彦全集の最終巻が手元に届いた。この全集は戦後の混乱も十分治まらぬ時代、私の在学した高校に全巻揃って在り、それを読む機会に恵まれた。この本から、私は多大の影響を受けた忘れ難い本である。その全集の第一巻より引用する。「……唯書棚の中に並んでいる書物の名を硝子越しに眺めるだけでも、自分には決して無意味ではなかった。唯それだけで一種の興奮を感じ刺戟と鞭撻を感ずる……」現在の日本橋丸善では踏み台無しでは手が届かぬ程の高い書棚にぎっしりと本が並び、寅彦時代と違い、硝子など無い。すぐ手に取って見ることが出来る。丸善は東京駅より遠からぬ所にあるので、上京の折にはよく行くが、寅彦ならずとも並んだ本の前に立ち手に取って頁をめくると、何か興奮めいたものを感じる。何故か？並ぶ本は自分にとって未知の世界がその中に詰め込まれているだけでなく、またその世界への地図であるからではないだろうか。そして未知の世界への誘いが限りなく好奇心を駆り立てるからではないだろう

か。

もう少し引用する。「……P君はこんなことを言った。「書物は精神の外套でありネクタイでありブラシであり歯磨でないか、ある人には猿股でありステッキでないか。」……」このP君の言葉は的を射ているとおもいますが、もう一つ私は「未知の世界への地図」という言葉を追加すべきと考える。

図書館を利用して

工学研究科 電気工学専攻

新 居 田 智 彦

私が大学生になって、最初の戸惑いは、自由な時間があまりに多いことであつたと記憶して居ます。この時間を多くの人は無意味に過ごしがちで就職の決まる頃になって、「ああ、あの頃に……」と思う人も少なくない様です。晴れて大学生となられた皆さんに、自分自身の反省もこめて、これからの学生生活と図書館の利用について、私の経験から少し話をしたいと思います。

大学の学習は、これまでとは一変して、専門的知識のラッシュです。多くの方は、一生その分野で生きてゆくのですから、嫌いでは済まされません。先づ専門分野に関する興味を育ててほしいと思います。図書館には、各種雑誌や、日刊工業新聞、日本経済新聞なども揃えられて居ます。大学生としての一般常識と広い専門知識を身に付けるという意味では有効でしょう。また、これからの学習では、誰も今までのように、手とり足とり教えてはくれません。皆さん自身で必要な情報を探し出し、理解する習慣を身に付けることが必要です。もっとも、そうならざるを得ないのですが…。図書館には、膨大な数の蔵書が収められて居ます。日頃皆さんが目にする、開架閲覧室の他に、書庫をはじめ、各学部の学科・研究室にも多数あ

そこで我々は精神の世紀末の真冬の時代でも、書物の外套で寒さから身を守り、ステッキや地図を持ち、未知の世界の探検に行けば、そこは常春の世界で真の宝を得ることができよう。終わりにあたり一言、書物は我々に最大級の影響を与えるだけでなく、子孫への最大級の贈物の一つであることも忘れてならない。(理学部助教授 物理学)

ります。依頼すれば、全国の図書館にも手配してくれますから、皆さんの手にできる本は、正に無限大です。本学の図書館内の蔵書だけでも、自分の必要なものを見つけることは、意外に骨の折れる仕事です。既に貸し出されて居たり、研究室の蔵書であったり、他分野の中に目的とするものがあつたりで、結局、満足のできるものが見つからないこともしばしばです。3回生、4回生になって必要にせまられる前に、是非、糸口だけでもつかんでおくべきです。

もう一つ自己反省を含め、皆さんに勧めたいことがあります。それは、自分の専門とは異なる分野の本を、少しでも読んでほしいということです。専門分野に長けているのはあたりまえ、多様化している社会の中で、要求されるのは専門の知識だけではないことを、卒業も近くなって痛感するのです。それだけでなく、日常生活に於いても、こういった人と話をすると、とても魅力的に感じます。

以上、私の反省から少し話をしましたが、新しい大学生活に、胸をふくらませて居る皆さんのお役に立てていただければ幸いです。

図書館の思い出

法文学部 文学科

田 村 伸

新入生のみなさん、御入学おめでとうございます。みなさんが入学された愛媛大学には附属図書

館があるわけですが、図書館についての私の思い出を含めて少し書きたいと思います。稚拙な文章

で申し訳けありませんが、新入生のみなさんの学生生活の一助になれば幸いです。

本当の事を正直にいいますと、私は2回生の後期になるまで図書館を利用してはいませんでした。図書館にたちよることもほとんどなく、一年と半年の学生生活を過ごしていたわけですが、今から考えてみると、とてももったいないことをしていたと思います。その間、私は講義には出席していたものの、それは単なる出席であり、知識の拡大・本当の勉強へとつながるものではなく、講義の時点で停止してしまう大学入学までの勉強と同じものであったからです。講義の内容を自分で確認し、拡大させていく研究意欲に欠けていたのです。みなさんには、入学した時から積極的に図書館を利用してもらいたいのです。それが後になって必ず生きてくると思います。

2回生の後期からゼミがはじまることによって私の図書館通いがはじまるわけですが、その成果については聞かないで下さい。

図書館のカードを使って目当ての本を捜すわけですが、開架の書架にその本をみつけても借りてすぐ帰るということはありませんでした。借りて帰る本は下宿に帰って読めるわけですから、その時は必要なくてもタイトルを見て興味のある本は

そのタイトルが目にはいった時に読んでいきました。このような乱読は、私の専攻分野である日本史に限定されていたのではなく、寧ろ日本史以外の本が圧倒的でした。大学においては専攻分野の本の精読が必要なのは当然ですが、多方面にわたる乱読も必要だと思います。私は乱読にばかり精を出してしまいましたが、専攻分野の精読は多方面の乱読により、生きてくると思うのです。このような事をするのに図書館は最適だと思います。

4回生になると、書庫にはいることができます。書庫には一度は行って全ての階を回ってみることをお勧めします。書庫というのは一種の異世界のようなものです。開架とは様子がまるで違うことがはいてみるとわかるはずですが、私は、開架の時と同じように書庫でも本を読みましたが、開架の場合よりもずっと楽しかったことを覚えています。書庫にある本はもう入手することが困難な本ばかりですから、少しでも多種多様な本にふれて、みなさんの本当の勉強に役立てて下さい。

また、図書館は愛媛大学附属図書館だけを利用するのではなく、お隣りの松山商大の附属図書館や県立図書館をも利用することをお勧めします。一冊でも多くの本を読んで、大学生活を有意義にそして本当の勉強に役立てて下さい。

もう一人の先生としての図書館

医学部 医学科

渡 部 一 郎

小、中、高等学校と、図書館を小説、物語の類の借り出しとしてしか利用しなかった頃と比べて大学、とくに専門課程で勉強している現在では、図書館の利用の仕方も異ってきています。

専門課程では、1回の授業のみでは完全に消化できない内容も多く、そんなとき、理解できなかった箇所について図書館で調べることにしています。つまり、もう1人の先生として図書館を利用しているということです。この先生は、大変知識が豊富で、私の今興味をもっていることについても応えてくれます。例えば、心電図について調べたいのなら、易しい本(心電図のABC)から難しい本まで、その時の自分のレベルに応じて借り出して勉強できます。

この先生と仲良く付き合うためには、暇なときなど館内をぶらぶら歩いてみることも大切です。どこにどんな本があるのか、新刊の有無など知っておくことも大切です。本屋に立ち寄るような気持ちで気軽に図書館へ足を運んでみれば良いと思います。思わぬ本に出会うかもしれません。また新聞や週刊誌もおいてあるので、社会情報のある程度の収集にも役立ちます。その他、カード目録の引き方、図書の予約申込み、文献複写利用などの図書館利用法を知っておくと便利です。これらを知っておくことによって、図書館を先生として、十分にかつ楽しみながら利用できます。たとえわからないことがあっても、親切な図書館の係の人に尋ねれば、丁寧に教えてくれます。

図書館を利用する上で注意しておかねばならないことは、第一に静かに利用することです。グループでのレポートあるいは勉強会のためか、大声で討論していることがたまにあります。他人の迷惑になるので気をつけなければなりません。第二に返却日を守ることです。私もついうっかりして返却日を超過してしまうことがあります。なか

には、何十日も延滞している人もみかけます。この二つのことは、先生としての図書館に対するエチケットとして注意すべきことだと思います。

最後に、図書館をあまり利用していない人へ、「図書館は、大変多くの知識をもった先生です。こちらから門戸を叩けば、必ず快く迎えてくれます。大いに図書館を利用すべきだと思います。」

愛媛大学附属図書館業務電算化委員会の設置について

学術情報センターでは、昭和60年度から全国の大学図書館を対象にして目録所在情報サービスを行っている。すでに30数館の大学図書館がセンターと接続している。

愛媛大学附属図書館においても、学術情報セン

ターと接続して学術情報システムに参加すること、現在稼働中の閲覧業務、雑誌業務の両システムの見直しも含めて、図書館業務全体の電算化を検討するために、昭和61年10月に附属図書館電算化委員会を設置した。

愛媛大学附属図書館業務電算化委員会

総括責任者		学術雑誌係長	松田	実
事務部長	浅野次郎	医学部分館運用係長	竹林	寛
推進班		開発班		
幹事整理課長	三好健夫	幹事受入係長	安永	勉
幹事補佐 閲覧課長	河田政雄	幹事補佐 参考調査係長	川野茂美	
〃 専門員	岡田久	目録係	有馬秀子	
総務係長	増田勝昭	目録係	大森輝久	
受入係長	安永勉	医学部分館整理係長	河野建二	
目録係長	西原茂樹	農学部分館図書係	森川友代	
医学部分館整理係長	河野建二	閲覧係	冨田要一	
閲覧係長	津田信孝	学術雑誌係	松本八郎	
参考調査係長	川野茂美			

本学図書館の地域資料について

昭和55年、「本学図書館と地域（愛媛県及び愛媛県と密接な関係にある瀬戸内海圏を含む）との相互協力は如何にあるべきか」について検討することになり、その研究会である「在り方研」を発足させ、当時の館長を中心に討議を重ねる一方、この問題の具体化を図るため、愛媛県教育委員会文化振興局並びに愛媛県立図書館と協議を進めた

結果、三者による「相互協力についての申合せ事項」がまとまりました。

その大要については、本学図書館が図書館活動を通じて、地域の学術・文化向上発展のため寄与するとともに、地域においては愛媛県及び県下の市町村の刊行する資料を本学図書館に提供する基本的事項が促進されることが了解されました。

この申合せの成立を契機として地域の資料が多数寄せられるようになり、現在その数1千点近くに至っております。

又、この資料は図書館1F参考図書コーナーの北側に配架し、自由に閲覧出来るよう配置しています。このように年々増加する地域資料を紹介することは、学内の利用者にとって役立つものと、シリーズで紹介することといたしました。

本号では愛媛県市町村関係の東予編を、次号以降中予編・南予編・愛媛県全般編及び愛媛県に關係する資料編を順次紹介する予定です。

この地域資料が更に充実するよう各位の一層のご協力をお願いする次第です。

〔川之江市〕

- 川之江藩札史 進藤直作 1960
 川之江市史 第1輯 古墳時代篇 川之江市教育委員会 1960
 川之江天領史 進藤直作 1965
 川之江郷土物語 森実善四郎 1969
 川之江市農業の現状と展望 中国四国農政局愛媛統計情報事務所三島出張所 1973
 尾藤二洲伝 白木 豊 1979
 川之江の地理 愛媛県高等学校教育研究会1982
 川之江市の農林水産業 中国四国農政局愛媛統計事務所西条出張所 1982
 産地文化振興計画 一伊予三島・川之江地域一 愛媛県社会経済研究団 1982
 川之江市誌 川之江市 1984
 文化時報 1985盛夏号・仲秋号・1986盛夏号
 川之江市文化協会

〔伊予三島市〕

- 郷土史年表伊予三島市 100年のあゆみ 伊予三島市教育委員会 1973
 伊予三島市の歴史と伝説 合田正良・合田一慶 1976
 伊予三島市史 上巻(1984) 中巻(1986) 下巻(1986) 伊予三島市
 ソーシャル・リサーチ 第3号(1974)～第12号(1985) + 伊予三島ソーシャル・リサーチ研究会
 愛媛伊予三島 伊予三島市観光協会

〔新宮村〕

- 30年のあゆみ新宮村 新宮村 1984

〔土居町〕

- 土居町振興計画(改訂版) 土居町 1979
 どい 1979年町勢要覧 土居町 1980
 土居町の農林水産業 中国四国農政局愛媛統計情報事務所西条出張所 1981
 土居町誌 町政30周年記念 土居町教育委員会 1984
 いよどい 土居町観光協会

〔別子山村〕

- 別子銅山 川崎英太郎 1980
 別子銅山年表 別子銅山親友会 1981
 別子山村史 別子山村史編纂委員会 1981

〔新居浜市〕

- 愛媛県新居郡誌 愛媛県新居郡役所 1923
 新居浜産業経済史 新居浜市 1973
 別子鉱山鉄道略史 別子銅山記念館 1973
 最新版新居浜(全域図) 塔文社 1979
 地名の由来新居浜 新居浜市教育委員会 1980
 新居浜市史 新居浜市史編纂委員会 1980
 郷土史談 第6号(1976)～第138号(1987) + 新居浜郷土史談会
 にいはま 新居浜市・観光協会
 鴻上弥三郎翁と船木の風土記 新居浜郷土史談会 1976

〔西条市〕

- 伊予西条藩史・小松藩史 秋山英一 1931
 西条市誌 久門範政 1966
 西条市誌編纂余録 久門範政 1973
 八堂山 八堂山遺跡発掘調査報告書 長井数秋 1972
 氷見経塚古墳発掘調査報告書 長井数秋 1976
 市民意識調査結果報告書 西条市 1978
 西条市総合計画基本構想 西条市 1979
 西条ののり 中国四国農政局愛媛統計情報事務所西条出張所 1979
 西条臨海工業用地 西条市 1980

西条の文化財 改訂版 西条市教育委員会
1981
西条市の農林水産業 中国四国農政局愛媛統計
情報事務所西条出張所 1981
西条 1981年市勢要覧 西条市
祭ヶ岡古墳発掘調査報告書 西条市教育委員会
1982
西条の民話と伝説 第1集(1985) 第2集
(1985) 西条市教育委員会
管内の農林水産業 中国四国農政局愛媛統計情
報事務所西条出張所 1985
喜多浜みこし 藤田駿一 1985
注釈西条誌 矢野益治 1982
四国の中心都市をめざす西条 西条市

〔東 予 市〕

庄内村誌 庄内村誌編集委員会 1956
周桑史談 第1号(1956)～第3号(1958)
周桑史談会
明治百年記念周桑の文化財 周桑郡公民館連絡
協議会 1969
ふるさと三芳 ふるさと三芳編集委員会 1984
東予市の文化財 東予市教育委員会 1984
周布村誌 周布村誌編集委員会 1978
新居・周桑の林業 中国四国農政局愛媛統計情
報事務所西条出張所 1980

〔小 松 町〕

ふるさとめぐり 小松町文化財讀本 小松町教
育委員会 1980
郷土の民話 1・2(1970) 小松高等学校家政
科

〔丹 原 町〕

お寺のはなし 丹原町仏教会 1981
田野村誌 田野村誌編集委員会 1957
周桑の岩石 玉井肅一 1968
ふるさと歴史探訪資料 田野公民館 1980
丹原町の農林業 中国四国農政局愛媛統計情報
事務所西条出張所 1982

〔今 治 市〕

今治市誌 今治市 1943

伊予の今治 森光繁 1960
今治史談 今治史談会 1965
唐子台遺跡群 今治市教育委員会 1974
宮ノ内遺跡 今治市教育委員会 1976
松山領波止浜町町方覚日記 齊藤正道 1977
今治の文化財 今治市教育委員会 1978
治平谷11号墳 今治市教育委員会 1979
最新版今治市 (全域図) 塔文社 1979
流通拠点都市整備基本計画 今治市 1979
目で見る市政教室 今治市 1979
今治市の統計 昭和54年版・昭和59年版・昭
和60年版 今治市
市政概要 昭和55年版 今治市議会事務局
いまばり 今治市市制60周年記念市政要覧
今治市 1980
昭和54年度研究要録 第29集 今治市教育研
究所 1980
今治の歴史散歩 齊藤正道 1980
今治城 今治市 1980
今治勤労者野外活動施設 雇用促進事業団
1980
いまばり 郷土芸能獅子舞 今治地方観光協会
いまばり 観光と産業 今治市 1980
いまばりの物産 今治市
今治の歴史散歩 再版 齊藤正道 1981
今治夜話・続今治夜話・小松邑志 伊予史談会
1981
燧 創刊号(1983)～第7号(1986) +
今治総合文化研究所
今治商工会議所八十年史 今治商工会議所
1984
今治の歴史 今治市教育委員会 1985

〔朝 倉 村〕

鴨部村誌 鴨部村
あさくらの史跡めぐり 朝倉中央公民館 1980
朝倉村の農林業 中国四国農政局愛媛統計情報
事務所今治出張所 1982
朝倉村誌 上巻・下巻 朝倉村 1986

〔玉 川 町〕

たまがわ 1979年町勢要覧玉川町 1979
玉川町の林業 中国四国農政局愛媛統計情報事

務所今治出張所 1981

にぶかわ 鈍川温泉 玉川町

〔波方町〕

なみかた誌 波方町 1968

ふるさとなみかた 歴史と民俗 波方町教育委員会 1977

なみかた 1979年町勢要覧 波方町

なみかたのふるさとめぐり 波方町教育委員会 1983

〔大西町〕

大西町誌 大西町教育委員会 1977

おおにし 1981年町勢要覧 1981

怒麻(大西史談会誌)第1号(1979)～第8号(1986) + (欠第3号(1981)) 大西町史談会

おおにし 第173号～第177号(1985) + 大西町教育委員会

〔菊間町〕

菊間町誌 菊間町誌編纂委員会 1979

菊間の養豚 中国四国農政局愛媛統計情報事務所今治出張所 1979

菊間町の農林水産業 中国四国農政局愛媛統計事務所今治出張所 1980

〔吉海町〕

えひめ大島 吉海町

吉海町の農林水産業 中国四国農政局愛媛統計情報事務所今治出張所 1983

〔宮窪町〕

伊予水軍と能島城跡 鶴久森経峰 1939

郷土誌(写) 宮窪町 1980

村勢調査書(写) 宮窪町 1980

宮窪町農林水産業 中国四国農政局愛媛統計情報事務所今治出張所 1985

〔伯方市〕

伯方島誌 北浦小学校郷土クラブ 1967

〔魚島村〕

うおしま 1978年・1984年村勢要覧 魚島村

〔弓削町〕

弓削町史考 弓削町教育委員会 1974

ゆげ 町制27周年記念町勢要覧 弓削町 1979

弓削島荘の歴史 山内 譲 1985

〔岩城村〕

伊予岩城島の歴史 上巻 岩城村教育委員会 1970

続伊予岩城島の歴史 岩城村教育委員会 1971

いわぎむら 戦後30年の歩み 岩城村 1978

ふる里いわぎ散歩みち 岩城村 1980

瀬戸内海国立公園いわぎ 岩城村観光協会

〔上浦町〕

愛媛県上浦町誌 上浦町 1974

わが町わが上浦 1980年上浦町勢要覧 上浦町 上浦のこみち 杉野昌三 1981

上浦町の農業 中国四国農政局愛媛統計情報事務所今治出張所 1982

30年のあゆみ上浦町合併30周年 上浦町 1984

〔大三島〕

大三島 1966年・1969年・1976年・1980年 町勢要覧 大三島町

大三島町振興総合計画基礎資料 大三島町 1972

大三島町振興総合計画(第2次策定) 大三島町 1978

大三島少年自然の家 大三島町教育委員会 1973

大山祇神社について 松岡 進 1980

大三島町の農林水産業 中国四国農政局愛媛統計情報事務所今治出張所 1981



昭和 62 年度 新規及び中止購読雑誌リスト

○ 新規雑誌

本 館

誌 名	備付場所
bit	教養 情報科学
bit 別冊	教養 情報科学
bit 臨時増刊	教養 情報科学
文 学	教養 文学
文 学	教養 英語
季刊 文学・語学	教育 国語
文学評論 (WENXUE PINGLUN)	教育 国語
文学遺産 (WENXUE YICHAN)	教育 国語
地 球	教育 地理
地質ニュース	教育 地理
Computer Today	教育実践センター
Computer Today	教養 情報科学
学習情報研究	教育実践センター
判例時報	法文 法学
季刊 児童文学批評	教育 家庭
かくしん	教養 政治学
計測自動制御学会論文集	工学 制御工学
江漢考古	法文 日東文化
国民生活	教育 家庭
教育科学 国語教育	教育 聴覚言語
NHK ラジオドイツ語	教養 英語
NHK テレビ英語会話Ⅱ	教養 英語
日本児童文学	教育 家庭
日経メディカル	法文 人間科学
パリティ	工学 応用物理
北京大学学报	法文 日東文化
レファレンス	法文 人間科学
洗濯の科学	教育 家庭
市場史研究	法文 経済学
心理学研究	教育 養護
史 林	法文 日東文化
システムと制御	工学 制御工学
書道評論	教育 書道

書道ジャーナル	教育 書道
商事法務	法文 法学
ソシオロゴス	法文 人間科学
数学セミナー	教養 情報科学
数学セミナー 増刊	教養 情報科学
数学セミナー 別冊	教養 情報科学
食べ物通信	教育 家庭
東方学	教養 歴史
東洋史研究	教養 歴史
問答式 農地の法律実務	図書館
A. C. M. SIGCSE Bulletin.	教養 情報科学
A. C. M. SIGPLAN Notices.	教養 情報科学
A. C. M. SIGSIM Simulation.	教養 情報科学
American Banker.	法文 法学
American Journal of Sociology.	法文 人間科学
American Sociological Review.	法文 人間科学
Anthropology Today.	教養 文化人類学
Bankers Magazine.	法文 法学
Banking Law Journal.	法文 法学
British Journal of Sociology.	法文 人間科学
British Journal of Sociology of Education.	教育 教育
Canadian Journal of Earth Sciences.	教養 地学
Chemical Geology.	教養 地学
Classical and Quantum Gravity.	教養 物理学
Cognitive Development. (Ablex Pub.)	教育 幼稚園
Computers & Fluids.	工学 制御工学
Contributions to Mineralogy and Petrology.	教養 地学
Critical Inquiry.	教養 英語
Cultural Anthropology. (Ame. Anthropological Assoc.)	教養 文化人類学
Culture, Medicine and Psychiatry.	教養 文化人類学

Current Topics in Early Childhood Education.	教育 幼稚園	Measurement and Control.	工学 制御工学
Dissertationes Mathematica. (Warsaw)	教養 数学	Natural Product Updates.	教養 化学
Early Child Development and Care.	教育 幼稚園	Neotectonics.	教養 地学
European Journal of Sociology.	法文 人間科学	New Left Review.	法文 欧米文化
Family Law Quarterly.	法文 法学	Newsweek.	工学 通信工学
General Relativity and Gravitation.	理学 物理学	Nuclear Fusion.	理学 物理学
Geochimica et Cosmochimica Acta.	教養 地学	Physics Education.	教育 物理学
I. S. A. Transactions. (Instrument Society of America)	工学 制御工学	Piano Quarterly.	教育 幼稚園
Institute of Measurment and Control Transactions.	工学 制御工学	Progress in Human Geography.	教養 地理学
International Journal of Control.	工学 制御工学	Q & A in General Topology.	教養 数学
International Journal for Numerical Methods in Fluids.	工学 制御工学	School Organization.	教育 教育
International Journal of Robotics Reserch.	工学 制御工学	School Psychology Review.	教育 幼稚園
Japanese Journal of Applied Physics.	工学 物性工学	Scientific American.	工学 応用物理学
Journal of Climatology.	法文 人間科学	Sex Roles : A Journal of Research.	教育 家庭
Journal of Educational Technology Systems.	教育実践センター	Social Problems.	法文 人間科学
Journal of Health and Social Behavior.	法文 人間科学	Social Science & Medicine.	法文 人間科学
Journal of Marketing Research.	教養 心理学	Sport Search. (Sport Information Resource Center)	教育 体育
Journal of Marriage & Family.	法文 法学	Trusts and Estates.	法文 法学
Journal of Petrology.	教養 地学	Turbo Tech Report.	教養 情報科学
Journal of Phonetics.	教育 英語	W. S. I. Mitteilungen.	教養 経済学
Journal of Social Issues.	教育 家庭	Wirtschaft und Statistik.	教養 経済学
Journal of Social Psychology.	教養 心理学	Yeast.	理学 生物学
Law & Society Review.	法文 法学	Young Children.	教育 幼稚園
Lloyd's Maritime & Commercial Law Quarterly.	法文 法学		
Mathematical Notes.	教養 数学		

医学部分館

細胞工学	生化学
Hospital and Community Psychiatry.	神経精神医学
Journal of Cell Biology.	解剖学第二

農学部分館

アスキー ASCII	農業環境工学
Ambio.	環境化学
Journal of Contaminant Hydrology.	図書館
Physcs and Chemistry ₂ of Minerals.	土壌学・肥料学
Yeast.	生物化学

○中止雑誌

本 館

Aging (エイジング)
 アジア クォーターリー
 文物天地
 文学界
 地 域
 中央民族学院学报 (ZHONGYANG MINZU
 XUEYUAN)
 電子科学
 電子科学 別冊
 英語学
 学术研究 (XUESHU YANJIU)
 学术月刊 (XUESHU YUEKAN)
 学术月報 増刊
 学習と探索
 現代経済
 俳 句
 悠 (HARUKA)
 発 達
 発達 別冊
 保育ノート
 ホームルーム
 実存主義
 住民活動
 科学技術文献速報 物理・応用物理編
 科学技術文献速報 電気工学編
 科学の領域 増刊
 華東師範大学学报 (Journal of East China
 Normal University)
 経済学論集
 経済学雑誌
 光 学
 江淮論壇 (JIANGHUAI JUN TAN)
 考古 (KAOGU)
 甲骨学
 教育音楽 小学版/中学・高校版 別冊
 マイコン 別冊
 マイコン BASIC マガジン
 名作欣賞
 民族文化 (MINZUWENHUA)
 NHK 趣味講座 ベストゴルフ
 日本の美学
 日本歴史
 日工マテリアル

ニューズウィーク (日本語版)
 パーゴルフ
 歴史地理教育
 歴史档案 (LISHI DANGAN)
 留学と会話
 世界経済評論 別冊 (国際経済)
 世界の地理 (週刊朝日百科)
 伸銅技術研究会誌
 障害者教育研究
 食品工業
 トランジスタ技術 別冊
 ウィリアム・フォークナー
 幼児と音楽
 American Psychologist.
 Applied Mechanics Reviews.
 Applied Scientific Research.
 Bulletin of Informatics and Cybernetics.
 Combustion Science and Technology.
 Current Sociology.
 Developmental Review.
 Electronic Engineering.
 Ergodic Theory and Dynamical Systems.
 Fire Safety Journal.
 Geological Society of America Bulletin. Pt. 1.
 Geophysical and Astrophysical Fluid Dyna-
 mics.
 Historical Statistics of the United States.
 Human Development.
 I. E. E. Proceedings, A. F. H.
 I. E. E. E. Transactions on Information
 Theory.
 International Journal of Behavioral Develop-
 ment.
 International Journal of Engineering Science.
 Journal of Agricultural and Food Chemistry.
 Journal of Experimental Psychology, Learn-
 ing, Memory and Cognition.
 Journal of Food Science.
 Journal of Plasma Physics.
 Mechanics and Materials.
 Perceptual and Motor Skill.
 Phonetica.
 Physics of Fluids.
 Psychology Today.
 Review of Scientific Instruments. N. S.
 Revue de l'Histoire des Religions.

S. I. A. M. Theory of Probability and its Application.
Soviet Journal of Plasma Physics.
Stochastic Processes and Their Applications.
Wave Motion.
Wirtschaftswoche.

医学部分館

蛋白質・核酸・酵素 増刊
Circulation.
Gynecologic Oncology.
Journal of Psychiatric Research.
Langenbecks Archiv fur Chirurgie.

農学部分館

バイオインダストリー
bit
人と国土
人と国土 増刊

科学
農業技術
農村計画
林政
月刊細胞
施工技術
食の科学
国土法関係質疑応答集
Environmental Pollution, A. B.
I. E. E. E. Transactions on Automatic Control.
I. E. E. E. Transactions on Instrumentation and Measurement.
I. E. E. E. Transactions on Systems, Man & Cybernetics.
Phytopathologische Zeitschrift.
Proceedings of the Society for Experimental Biology and Medicine.
Soil and Water Conservation News.

＝ お 知 ら せ ＝

◎ 新入生に対する図書館利用証の交付について

本学の図書館を利用するためには、**図書館利用証**が必要です。

新入生（院生・専攻生・研究生・聴講生・編入生及び留学生を含む）の方は下記の期間に全員もれなく交付申請書を提出し、利用証の交付を受けて下さい。

申請書の用紙は閲覧係のカウンターに用意してあります。

なお、申請書の記入にあたっては、カウンター上の記入例をよく見て誤りのないよう記入して下さい。

申請書提出期間（学生証が必要です）

4月13日（月）から4月25日（土）まで

利用証交付期間（学生証と印鑑が必要です）

5月6日（水）から5月20日（水）まで

※ 取扱時間はいずれも

月～金は、9時から17時まで

土は、9時から12時30分まで

◎ ロッカー使用上の注意

図書館の自由閲覧室（1F）以外の各室（開架室・参考図書室・教科書閲覧室・文庫室及び書庫）に入室するとき、袋物・カバン・手荷物等の持込みは出来ませんので必ずロッカーを使用し

て下さい。

ロッカーの使用は図書館を利用する場合に限り、「ロッカー使用簿」に所属・氏名・ロッカー番号を記入し使用して下さい。

使用後は、必ず各自で使用簿にチェックし、鍵を所定の場所に返して下さい。

図書館利用以外の目的で使用することや、鍵の持出しは厳禁します。

なお、鍵の使用は当日限りです。

◎ 愛媛大学記念文庫について

昭和61年10月から昭和62年3月までの間に御寄贈いただいた著書は次のとおりです。

- クリスタル ドイツ語の俳句集
藤田菖園著 青葉図書 1986
- ロザリヨ記録
ユアン・デ・ルエダ著
翻字註：三橋 健 宮本義男
- Rimbaud アルチュール・ランボー
ピエール・ブチフィス著
中安ちか子・湯浅博雄訳 筑摩書房 1986

愛媛大学附属図書館報「図書館だより」

第23号 昭和62年3月25日発行
発行 愛媛大学附属図書館
松山市文京町3番
Tel 0899-24-7111